

平成26年度 事業報告

公益事業1：心とからだの健康保持及び増進事業

1. 健康増進の普及・啓発事業

(1) 普及啓発活動

ホームページを活用し、がん検診及び特定健診・定期健診等の紹介や、自分自身で生活習慣をチェックできるページを設ける等、広く香川県民の健康増進のための有意義な情報提供に努めました。

健診結果から有益な情報を発信するために大量のデータの収集が必要になることから、ホームページ・新聞・街頭啓発活動等を通じて、がん検診及び特定健診・定期健診等の受診勧奨を行いました。

また、より多くの県民に健康状態を把握する機会を提供するため、健康診断の検査スペースを拡大し、快適に受診してもらえよう空調等の設備を改修する等環境整備を行いました。

今後、県民の健康状態をより詳細に分析できるだけの情報量の確保が可能となり、よりの確な情報の提供が出来るようになると期待しています。

施設ならびに各巡回健診会場においても、生活習慣病、がん予防などに関する普及・啓発のパネル展示及びパンフレット配布等を行い、生活習慣改善の効果やがん検診への正しい理解等の普及啓発活動を実施しました。

当協会においては、別館一階に設けたガイドルームの積極的な活用を図りました。具体的には、「野菜を一日350g以上食べましょう」のテーマで野菜摂取を促したり、食事バランスガイドを基に、自分自身で食事内容の振り返りができるコーナーを設けました。併せて、運動や禁煙方法に関する情報も紹介しました。

その他の活動としては、5月31日(土)に実施された「世界禁煙デーinかがわ2014」への共催ならびに禁煙パレードへの参加、9月には県政テレビ番組「本当に知っていますか？クイズ！メタボリック」(10月12日に西日本放送にて放映済み)の番組収録への協力、11月には市民公開講座「危険な不整脈 心房細動を知っていますか？」への後援等を実施しました。

2. 調査・研究事業

(1) 精検追跡調査・がん検査・有症率調査

各種調査は、当協会の各健診事業の健診結果データに基づき、その後の状況追跡をして情報を収集し、地域の特性を知るためには経年的に継続調査することが重要です。

そのため、データ解析用機器を設置し、解析精度の向上を図るために過去結果データ 20 年分のデータベース化を計り、データベースを元にした疫学的課題の検討を進める予定で、現在はデータ取り込み作業並びにデータベース構築中です。

なお、乳がん検診のデータ分析結果については既に学会発表等に活用しています。

(2) 学会発表及び研修会

各種検診の多様化、高度化に対応するために、課題や研究テーマを設定し、データ分析の結果や日常業務において気づいた点等の研究を行い、関係各機関が実施する学会、研修会等に職員を積極的に参加させるとともに検診検査技量の向上を計りました。

主な学会参加・発表及び研修会一覧

年月日	学会・研修会・講習会名	内容	所属課名
8月28日～8月29日	全国情報統計研修会	日常の問題点の解決研修会	業務課
8月31日	第2回一般検査研修会	尿検査ならびに尿沈査について	施設検診科
11月6日	第73回日本公衆衛生学会（発表）	当施設における特定保健指導の効果についての検証	医局
11月29日	胃X線精度管理研究委員会 第22回学術集会	胃X線検診読影基準の作成にむけて	放射線科
12月13日	第45回中国四国胃集検の会（発表）	バリウム検査前の飲水と背景粘膜について	放射線科
2月6日	第60回四国公衆衛生学会（発表）	睡眠時間と生活習慣・検査結果(BMI・血圧・血液)の関連について	保健指導科
2月8日	消化管基礎研修会（発表）	上部消化管撮影の被曝について	放射線科
2月13日～2月14日	第24回日本乳癌画像研究会	経過化から学ぶ乳腺疾患－画像が示す病態の変化－	放射線科
2月20日	第43回日本総合健診医学会（発表）	胃X線におけるH.pylori感染状況推測の可能性についての検討	医局

(3) 健診データの分析・提供

健診で得られたデータを各部署で分析し、毎年作成している事業報告の作成配布により情報提供を行っています。事業報告については、予防医学事業中央会各支部並びに、県・市町の健康担当課及び当協会利用事業所に事業報告書（健康管理の参考資料）として、配布させていただいております。本年度は事業報告書配布時に事業報告書見直しに関するアンケート調査を実施しました。今後はそのアンケート内容を検討、分析し、順次、事業報告書へ反映していく予定です。

平成26年度は、特定健診：13,000件、特定保健指導：動機づけ支援247件、積極的支援125件を実施しました。さらに、事業所及び職域健診：32,700件、肺がん検診：27,600件、胃がん検診：11,200件、乳がん検診：5,800件、子宮がん検診：5,950件、

前立腺検診：5,500件、大腸がん検診：23,500件、学校心電図検査（標準12誘導）：11,700件の各検診・検査データ約124,000件を収集しております。

また、自治体や企業が健診結果から何を要望しているか、担当者が必要とする健康増進の取組みに活用できる情報を直接検索できるソフト構築が完了し、今後は、デモ等を通して、本ソフト（健診データ簡易検索システム）利用推進を図る予定で、本年度は一社（関連会社10社含む）に本ソフトを提供いたしました。

機器などの整備は保健医療技術や情報技術などの進歩を踏まえ、検診検査精度の維持向上、顧客サービスレベルの向上及び業務効率化等に対応するために最新検査機器の調達更新をしました。

精度管理の推進については、健診検査技術者の技量水準を一層向上させるため、技術研修会や日本公衆衛生学会などに参加しました。

精度管理の推進については、内部精度管理の徹底を図るとともに外部精度管理にも積極的に参加しました。

また、日本医師会、日本臨床検査技師会、県臨床検査技師会等にも参加しました。

公益事業2：新生児の先天性代謝異常症の早期発見に必要な各種検査事業

1. 先天性代謝異常検査（タンデムマス法を用いたマス・スクリーニング検査）

平成26年度は香川県をはじめ県下医療機関協力のもと約8千件（香川県分）の受託検査を実施しました。タンデムマス法により、19疾患（新たに13疾患）のスクリーニングが可能となり、偽陽性例や偽陰性例についても精度の高い検査結果を提供できるため、引き続き、先天性代謝異常疾患の早期発見並びに早期治療に役立ててまいります。

以上